

9. 機械整備

ここでは、事故における主要な5機種（トラクター、草刈機、コンバイン、耕耘機、草刈機）以外の機械整備に関わる事件事例を紹介する。

①実習で、エンジン下部のボルトを締め付けているときに工具が外れ、勢い余ってアゴをエンジン上部にぶつけた。（平成24年 3月10時頃、整備庫、女性・19歳）

エンジン分解組立の実習中、床に置いたエンジンの下部のボルトを締め付けているとき、スパナ（あるいはメガネレンチ）が外れたため、勢い余ってエンジン上部にアゴをぶつけた。

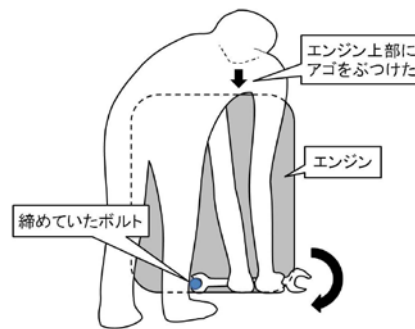
すぐに、車で病院へ連れて行ってもらった。現在、小さな傷跡が残っているが日常生活には支障はない。アゴ打撲と切創、通院4回。

* 事故原因

ボルトが床ギリギリの所にあり、作業しづらく、不自然な姿勢でボルトを締め付けていた。また、当日は睡眠不足であり、忙しかったため、早く作業を終えようと焦りがあった。

力を入れる方向や作業姿勢などに気をつけるとともに、適切な姿勢で作業できるようにエンジンを台の上に載せる等の対応が望ましい。

なお、実際の修理などは、アームやフレーム、その他の機器類があり、狭い空間の中で修理をすることも多く、頻度の高い修理などの手順などの訓練は特に重要と考えらる。



②野菜運搬用の台車を作成し、溶接部の毛羽をグラインダーで取っていて、グラインダーが跳ねて、腕挫傷。

（平成23年 6月 午後5時頃、作業用ハウス内、男性・57歳）

自宅横にある作業用のハウス内で、息子が溶接をして台車をつくってくれた。その台車の溶接部分を滑らかにしようと、グラインダーの刃で、パツ、パツと、溶接した部分の毛羽を取ろうとして、グラインダーが枠に当たり反動で跳ね返り、右手の上腕部分を切った。

近くで作業していた息子が上腕部を縛って止血をしてくれた。奥さんの車で20分くらいの外科医院で3カ所縫った。右上腕挫傷、10針、5針、5針縫合。通院のみ。大きな血管は切れていなかった。現在、握ることは出来るがしびれ感があり、手首がピリピリする。

* 事故原因

グラインダーの太さ・重量とも片手で作業するには扱いにくく、持ちにくい。また意識として、毛羽を「ちょっと」取ろうと、安易に扱った。金属を切ったりするときには、それなりに力が要るので、両手で持ち意識を持って作業するので、怪我は少ない。



使用したグラインダー



台車

握りの直径 : 7cm、
回転刃直径 : 10.5cm
長さ : 20cm

高さ : 149cm
奥行き : 98cm
幅 : 98cm

*作業場内の照度 520 ルックスと明るく、特に問題はない。



左手にグラインダーを持って、溶接部をなめらかにしようとしていて、どこかにぶつかりグラインダーが跳ね、図のような形で左前腕挫傷



近くにいた息子さんがすぐに止血してくれ、奥さんの車で約 20 分で、外科医院へ行った。

現在もしびれ感があり、手首がピリピリする。